

# CENJ

## 2022 Outreach

-2022 年度アウトリーチレポート-







# 沖縄チーム

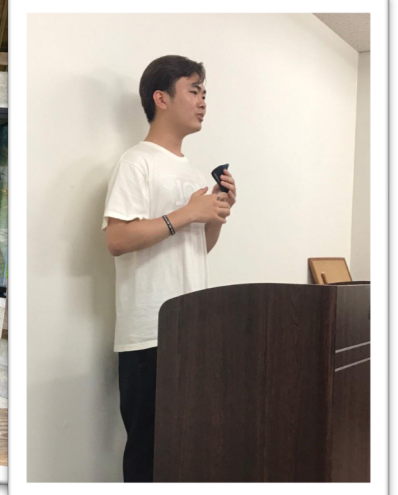
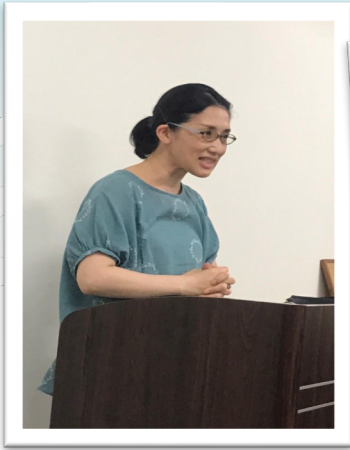


ああ。渴いている者はみな、水を求めて出て来い。  
金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。  
さあ、金を払わないで、穀物を買ひ、代価を払わない  
で、ぶどう酒と乳を買え。

なぜ、あなたがたは、食糧にもならない物のために  
金を払い、腹を満たさない物のために労するのか。  
わたしに聞き従い、良い物を食べよ。そうすれば、  
あなたがたは脂肪で元気づこう。

イザヤ 55 : 1-2





## 沖縄チーム タイムスケジュール

**7/7(木)** 7:30 学院出発 9:30 新千歳空港着

11:20 新千歳発 14:55 那覇着

16:30頃 遅めのランチ ぶくぶくコーヒー

19:00頃 Vineチャーチ着、リハ

20:00 祈り会

賛美リード: 恵、カホン: 耕平、ギター: 直志、ピアノ: 雄基 証: ジョシュ、メッセージ: 耕平

23:30 屋良家の離れで宿泊

**7/8(金)** デボーション (ピリピ1章) 分かち合い、祈り

13:00-15:00頃 きらきらビーチ、ランチ

16:00 宿泊のため、プレイズチャーチへ

18:00 MOJファミリーチャーチ着 ミーティング &リハ、夕食

19:30-21:00 リバイバル特別祈り会

賛美リード: 恵、ピアノ: 雄基、ドラム: 直志 証: めぐみ、ゆうき

22:00 プレイズチャーチに戻り、宿泊 (月曜まで)

**7/9(土)** デボーション (ピリピ2章)

10:00-12:00 カフェレクチャー or キッズイベントのチラシ配り

13:00-17:00 カフェ手伝い (Praise Coffee) or イベント買い出し&チラシ配り

**7/10(日)** デボーション (ピリピ3章)

9:00-10:00 キッズ礼拝&かき氷パーティー

ダンス賛美: 雄基、ピアノ: 恵、カホン: 耕平

ゲーム: 恵、ジョシュ 話: 直志、暗唱聖句: めぐみ

10:45-12:00 礼拝

賛美リード: 耕平、ギター: 直志、ピアノ: 雄基、フラッグ: 恵

ドラム、アシボ: プレイズチャーチの方々 証: 恵、直志

12:00 教会メンバーとランチ 沖縄そば

13:00 教会ユースとバスケットボール大会@体育館

16:00 仰一先生と猿人温泉へ

**7/11(月)** デボーション (ピリピ4章)、掃除

仰一先生による読谷観光 渡具知ビーチ、やちむんの里

12:00 ヘブンズチャーチの隣のカフェCLAYでランチ

14:00 陶器師松田共司さんからお話を伺う

15:00 祈って解散

沖縄の地をおふざけでなく、アウトリーチという神の福音を伝えるための素晴らしい働きで巡ることができたことを神に感謝します。また、チーム全員が最後まで守られたことも感謝します。私が20年以上住んでいたこの地には、こうも個性的な神の家族がいたのだなと思わされました。受け入れてくださったそれぞれの教会に必要な人たちが神によって集められ、形は違えどキリストを頭として個性的な人々が集っていることに感動しました。

初日のVineチャーチのメッセージはくじ引きで決めたのですが、そのメッセージはまさに神がこれを語れというメッセージで、あのくじ引きはまさに神の選びだったのだと思わされました。MOJファミリーチャーチでは、前日にVineチャーチで学院生が語ったメッセージの聖書箇所が続きになっていました。内容も似たものでVineチャーチのメッセージの続きをMOJファミリーチャーチでも聞いているようでした。ここでも主が働いているのを強く感じました。そして、終わった後に多くの方が次々に証を始めて、証が永遠に続くのではないかと思いました。また、熱く証をした一人の人がいたのですが、驚いたことにまだ洗礼を受けていなかったのです。洗礼を受けていない人さえもこんなに燃やされるのだなと驚きました。その方が洗礼を受けるようにお祈りしていきたいです。

土曜日には沖縄プレイズチャーチのカフェを手伝わせて頂いたのですが、カフェには未信者だけど池原先生が関係を築いている方々が多く訪れて、交わる機会がありました。そして、カフェという場所が良い伝道の場所になっているのを強く感じました。また、カフェの常連さんで池原先生とプライベートでも食事に行く仲の方が来ていたのですがその方が後日、初めて教会に訪れる機会に立ち会えたことも嬉しかったです。また、教会からは離れてしまったけどカフェにはよく来る方もいるという話を聞いて、カフェを通して繋がりを保っているのはとてもいいなと思いました。しかし、カフェから教会にどう繋げていくかという見えない境界線の難しさも教えられました。

最終日は、陶器師の松田さん（通称 親方）の工房にお邪魔させていただきました。学院の授業で陶器師のことは学びましたが、実際に陶器ができるまでの工程の話を知ると、それは一つのメッセージでした。また、沖縄は戦争で唯一地上戦があった場所で、沖縄の人のアイデンティティーは傷ついていました。松田さんもその一人でアイデンティティーの回復を図るために、沖縄独自の文化であるやちむん（焼き物）を極めることを決めたそうです。しかし、そのやちむんを極めてもアイデンティティーは回復しなかったそうです。そんな時にイエスキリストと出会って、イエスキリストだけが自分を満たしてくださる方だと知り、同時にアイデンティティーも回復したそうです。最後の最後にこの話が聞けて良かったです。

この沖縄アウトリーチで本当に多くのことを学ばされ、多くの出会いがあり一つ一つの出来事を中心に主がいて強く働いてくださったことに感謝します。これはアウトリーチに来る前にチームで祈ったり、チームラインでも毎晩 20 時に祈りのリマインドがありその時に少しでも祈る時間をとっていたからだと思います。私たちの祈りが香ばしい香りとして天で主に届き、主が祈りに答えてくださったことに感謝します。



今回沖縄アウトリーチで主から教えられたことは、主を求めることです。そして、天の父が与えたものを感謝し喜んで受け取る恵みです。神学生なのに、今さら？と感じるかもしれません。まずアウトリーチ準備中、チームで祈り始めた時に主から示されたことは、沖縄の土地の回復でした。きらびやかに見える沖縄の地は、今もなお戦争で受けた傷跡・痛みが残っていること...琉球王国から日本国民とされ、しかしアメリカに支配され、アイデンティティーの混乱があること...また、あらゆる偶像や悪霊が蔓延していること...。祈りの中で示された課題に対して、主による土地のいやし、真のアイデンティティーの回復、真実の主であるただ一人の神の統治を宣言し、祈ることを示されました。

意気揚々と踏み出したのですが、着いてから半数以上のメンバーに偏頭痛が起こったり、暑さによる体調不良で予定に参加できなくなるメンバーが出てしまったり、肉体だけでなく、始めは順調に見えても、段々とチームで一つになることの難しさや、互いの弱さがあらわになってきたりしました。そして個人的には、今回自分がリーダーとされましたが、アウトリーチ中は喜び楽しみながらも、もっと最善を行えたのではないかと、リーダーとして見落としていた部分があったのではないかと、という気がかりが常にありました。この一学期を通して、自分がリーダーとして立つことの不十分さを度々感じ、取り扱いを受けてきました。

しかし、全行程を終えて主から語られたことは、「主において常に喜びなさい」ということでした。それはアウトリーチ中、デボーションで読み続けたピリピ書から、くり返し語られていたことでした。そして、心のすべてを主にささげなさいということでした。主がそれを私に、またチームに願っておられることを感じました。私たちの土地=心の痛みや弱さが明るみに出され、主のゆるしを受け、さらに主を求めることで主が臨まれる、そのことを喜びなさいと語られました。私たちが立たされ送られたことは、主の御計画であり、主がすべてを益として働かれることを喜びなさいと。沖縄の土地の回復ももちろんですが、主が本当に図られたことは、私たちの土地の回復でした。

他のメンバーも書くと思いますが、耕平くん、またルツ先生を通して主が語られたメッセージは、祈り求める者に与えてくださる主でした。天の父は、子の願い求め・祈りをまことに望んでおられることを改めて感じました。この期間に度々経済が満たされた証を聴き、主の導きを感じました。そして、それが私にも起こったことを感謝し証します。アウトリーチ後に母教会から特別献金が送られてきました。それにより、沖縄でささげた額のすべてが返ってきたのです。本当に心優しい、主の励ましを感じます。そして最終日に、やちむん（沖縄の焼き物）の陶器師の方から聴いたお話も、癖のある土や木をいかに忍耐して待ってから制作に踏み込むか、長い長い過程を経て、器が造られていくということでした。まさにそれは神と人との関係でした。私たちが祈りの答えを待つ以上に、忍耐して私たちの成長を見守り続け、建て上げ続けてくださる天の父をほめたたえます。

最後に、受け入れてくださった Vine チャーチの皆様、直志くんのご両親、ルツ先生を始め MOJ ファミリーチャーチの皆様、沖縄プレイズチャーチの皆様、コーディネートしてくださった仰一先生、陶器師の松田さん、送り出してくださった利先生、紀子先生、スタッフの方々、とりなし祈ってくださった方々に、心から感謝いたします。そして、主にすべての栄光をお返しし感謝をささげます。

## 「終始神様の素晴らしさを体感したアウトリーチ」 2年生 秋山耕平

今回のアウトリーチは、沖縄に行きました。去年の冬頃から、沖縄プレイズチャーチにはプライベートで行ってみたいと思い祈っていました。沖縄は冬も暖かいから、冬に行こうかなとも考えていましたが、アウトリーチの行き先発表の時、沖縄プレイズチャーチの名前が出た時に神様からのGOサインだと受け取りました。

しかし、行くと決まっても、経済的にはかなり厳しい状態でした。アウトリーチがちょうどバイト先の給料日の直前という一番お金の無い時期で、飛行機のお金も危うい状態でした。神様に祈っても、心から信頼することが出来ず、本当に与えられるかな...と半信半疑になってしまう自分がいました。先生方にも祈ってもらって、利先生が授業での証で具体的な祈りが大事ということをおっしゃっていたので、自分も今までは「経済を満たしてください」と祈っていましたが、「アウトリーチに行くのに、具体的にこれくらいのお金が必要なので、与えてください」と祈るようになりました。そんな中、アウトリーチの前の日曜日に北斗チャペルで、その具体的に出した金額とまったく同じ金額の献金が与えられて、本当に喜びの中でアウトリーチに行くことが出来ました。

沖縄に着いても、メッセージや証、賛美奉仕など、本当に喜んで仕えることが出来ました。日曜日朝の日曜学校のイベントの為に、前日に数名でトラクト配りに行った時、出会った男の子が1人で教会に来てくれたのもとても嬉しかったです。

また、Vineチャーチ、MOJファミリーチャーチ、沖縄プレイズチャーチのどの教会の祈り会や、礼拝も本当に祝福されました。それぞれの教会が本当に全く雰囲気は違いましたが、どれも素晴らしい教会でした。たくさんの教会を見て、働きもそれぞれまったく違いますが、キリストのからだとして機能しているなど感じました。体調も終始守られて、全日程を終えることが出来たことも本当に感謝です。送り出して下さった学院の先生やスタッフのみなさん、また受け入れてくれた教会のみなさんにも感謝します！

また本当に素晴らしい天のお父さんに心から感謝します！！！！

## 「一番北から、一番南へ」 ALPS生 伊藤 雄基

まずは今回沖縄アウトリーチに行くことができたことを神様に感謝します。今回私達は、一番北の北海道から、一番南の沖縄に行きました。僕は今三年生なので、たぶん最後のアウトリーチになると思うのですが、一年生の時も二年生の時も道内だったので、初めて海を渡ってのアウトリーチ（国内ですが海外のような感覚）に行けて感謝でした。飛行機も三時間ぐらいかかり、外国並みに遠いなど改めて思いました。

着いてみると、ミャンマーと気候が似ていて、久しぶりに暑さを体験しました。僕はミャンマーで育っているので暑さには慣れていると思っていたのですが、北海道に慣れすぎたせいか暑さに耐えられず、鼻血が止まらなくなり、頭もフラフラでした。しかし、街並みや生えている植物が南国

感満載で、ミャンマーと似ているものを感じ、懐かしかったです。

今回は、沖縄出身の学院生の実家の離れと、沖縄プレイズチャーチに泊めさせていただき、とても感謝でした。そして沖縄のきれいな海を見ることも出来、綺麗な写真を撮ることが出来ました。証をする機会も与えられ、救われた証をしました。皆さんとても熱心に聞いてくださり、領いてリアクションしてくださってとても感謝でした。

また日曜日は、コロナが始まってから呼んでなかった地域の子供たちを久しぶりに呼んで、かき氷大会もしました。そして昼にも、これまたコロナが始まってからその教会ではしていなかったランチを教会の皆さんと食べることが出来ました。沖縄ならではの「ソーキそば」を食べましたが、とてもおいしかったです。前から名前だけは知っていたのですが、そばというよりはラーメンのようなものでした。そして、アウトリーチが終わって解散してから、まだ残っていた何人かとボウリングをすることになり、沖縄最後の夜を楽しみました。

今回このように、チームのメンバーとアウトリーチ出来、事故や怪我もなく無事に終えることが出来、とても感謝です。神様に感謝します。

## 「ただ主ご自身を。。。」

## ALPS 卒業生 濱田 めぐみ

沖縄アウトリーチでは一日目、二日目と感動的な主の導きを感じながらのスタートでした。アウトリーチへ行く前に三つの教会でメッセージや証を6名で分担して行うことになり、誰がどの教会で担当するか決める際「くじで決めよう」という案が出ました。くじ引きした結果、秋山耕平君が一日目のVineチャーチの祈り会でメッセージをする事に決まり、残りの人は証をする事になりました。耕平君のメッセージではマタイ7:7-8から語られました。

「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。」メッセージの中で耕平君がアウトリーチの経済的な必要を満たして下さるようにと具体的な金額まで書いて主に求めたところ、主がその祈りを聞いて下さり、求めた額とピッタリの額が与えられたという証を聞き、それを聞いた時に、生きて働かれ、私たちに関心を持ち、必要を満たしたいと願われている天の父の優しさに触れ感動しました。耕平君がくじでメッセージをする事に決まったのはやはり耕平君が体験するであろう天の父の計らいを皆が聴き、私達も父ご自身に求めさせるためではないかと思いました。私は卒業後何をするのか等まだ決まっていない状態で主に祈り求めている最中であつたので、メッセージを聞いて、主は「私達の事を想って下さっている、私に関心を持っておられる」という事を改めて強く思われ、主の優しいお心を強く感じ、励ましを与えられました。また、天の父が必要を満たして下さる事は分かっているつもりでしたが、初心に戻られた感じがしました。

そして二日目のMOJの祈り会のメッセージでは伊江留津美先生が語られましたが、先生のメッセージも「天の父に求めなさい」という内容で、しかも聖書箇所はマタイ7:9、つまり一日目の続きの箇所でした。打ち合わせした訳でもないという事は誰の目にも明らかだったので本当に驚き、主の

御計らいを感じました。主が「わたしに求めなさい。」と強く言って下さっている事を感じました。

三日目のアウトリーチでは二チームに分かれ、一つはプレイズコーヒーのカフェでのお手伝い、もう一チームは翌日の礼拝前のプレイズキッズ(CS)の後に行くかき氷パーティーのためのチラシ配りでした。私はカフェで働いてみたかったので5時間という短い時間でしたが、池原先生のもとで働かせて頂きました。カフェをオープンしたきっかけや、またお客さんがどのように教会につながられていくかの模索をされている状況を聞き、また実際につながっておられる方々を拝見し、尊い働き的一端を見させて頂く貴重な時を与えられました。しかし、私は何十年かぶりの立ち仕事で足がパンパンになり、卒業後はカフェでバイトしたいという思いがあったのですが、もしバイトをしても体力的に続けていけるか不安になりました。そして更に主に強く祈り求め始めました。

今回、主に「求めなさい」と言うメッセージを頂いて始まったアウトリーチでしたが、沖縄滞在最終日の賛美と祈りの時間の中で示され気づかされた事は、私の中に地元へ帰る事の不安が大きい事でした。(学院のように霊的な良いものを受ける環境ではなく、その真逆に見える不毛な土地へ遣わされる印象)しかし、その賛美と祈りの中で引き続き主から示された事は、外側や周りの環境が問題ではなく、また地元を向上させるために何かをするという事に目を向けるのではなく、まず時間を取り分けて主と出会い「主を日々礼拝する」事。まずはそこから始めればよいというメッセージを受けました。一人であっても「日々主を礼拝する事」、これが今いる場所でもまた地元に戻ってからも私に与えられた本望である事に気づかされた沖縄アウトリーチでした。祈りに応え、道を示して下さいる主に心からの感謝をお捧げします。また主が備えられたチームの皆さん、教会の方々、先生方、その他の場所で出会った方々、とりなし手の方々に心から感謝します。

## 「沖縄アウトリーチレポート」

## 1年生 ロケ ジョシュ 輝

このアウトリーチを通して、授業だけでは補えない神様の偉大さと、聖霊を強く体験しました。最初に奉仕として行ったVineチャーチで、そこの牧師先生が、沖縄で牧会をしていた祖父と繋がっていたことを知り、なぜ僕が沖縄に遣わされたのかを初日から知ることができました。二日目のMOJファミリーチャーチでは、教会の大きさや人の多さによって聖霊を感じるという、僕の昔から染み付いてしまっていた良くない考え方が打ち消されました。そして、この教会の祈り会で生まれて初めて、しっかりと異言を体験することができました。祈っていく中で、何か込み上げてくるものを感じて、異言で祈ることができました。主に感謝します。プレイズチャーチでは、ノンクリスチャンの方との関わり方や、関わるまでのプロセスに関しての視野の広さがとても広がりました。実際にカフェや、日曜日に行ったかき氷パーティーなどを通して、教会を知ってくださった方や、その後礼拝(詳細には、礼拝前の賛美リハ)に残ってくださった方もいたそうで、自分の目で関わり方を見ることができました。クリスチャンホームで育ち、ノンクリスチャンの方との関わりに恐怖を感じてしまっていたのですが、とても解放されました。母教会で学んだことを一つ残らず実践し、同時にそれを下の世代に伝えていきたいです。沖縄に遣わしてくださった主と、紀子先生に感謝します。



# 岩見沢チーム







# 岩見沢アウトリーチ・タイムスケジュール

	7日	8日	9日	10日	11日
7:00	○7日までの流れ	○ディボーション& 祈りの時間 担当: 本間	○ディボーション& 祈りの時間 担当: 島勝	○ディボーション& 祈りの時間 担当: 後藤	○ディボーション& 祈りの時間 担当: 長谷川
7:10					
7:20					
7:30	2日 →買い出し 14:00~				
7:40					
7:50					
8:00		○朝食 →事前に調達	○朝食 →事前に調達	○朝食 →事前に調達	○朝食 →事前に調達
8:10	4日 →賛美練習 11:00~				
8:20					
8:30		○子ども会準備 →お菓子袋詰め 賛美練習			
8:40					
8:50					
9:00			○子ども会最終チェック	○日曜礼拝最終チェック	○教会清掃 →奉仕依頼が入った場合
9:10					
9:20					
9:30					
9:40					
9:50					
10:00		○チラシ配布 →学校前で配布?			
10:10					
10:20					
10:30					
10:40			○子ども会 →未信者 20人	○日曜礼拝 →賛美 証メッセージ ミニストリーの祈り	○岩見沢出発
10:50					
11:00					
11:10					
11:20					
11:30	○CFNU聖書学院出発 →途中で昼食	○昼食 →自炊			
11:40					
11:50					
12:00				○教会員との交わり →昼食 →ゲーム	
12:10					
12:20					
12:30					
12:40			○昼食 →自炊		
12:50					
13:00					
13:10					
13:20					
13:30					
13:40					
13:50					
14:00	○岩見沢到着 →顔合わせ →荷物搬入				
14:10					
14:20					
14:30					
14:40					
14:50					
15:00	○プレイヤーウォーク	○Language Exchange準備 →料理  参加者:20人弱	○日曜礼拝準備 →賛美練習 証メッセージ練習 パワポの作成		
15:10					
15:20					
15:30					
15:40					
15:50					
16:00					
16:10					
16:20					
16:30					
16:40					
16:50					
17:00			○個人の祈りの時間 →基本的に自由時間 それぞれで祈り、 聖書を読む時間にした		
17:10					
17:20	○夜食 →外食	○Language Exchange →教育大生との交わり		○ジェシー先生宅で フィードバック	
17:30					
17:40					
17:50					
18:00		ゲーム:フリスビー、 サッカー他 お弁当:韓国料理			
18:10					
18:20					
18:30					
18:40					
18:50	○シオンキリスト教会の方との交わり& 祈り会 →学院生の証		○夜食 →or自炊		
19:00					
19:10					
19:20					
19:30					
19:40					
19:50					
20:00		○お風呂(移動時間含む)			
20:10					
20:20			○お風呂(移動時間含む)		
20:30					
20:40					
20:50	○お風呂(移動時間含む)			○お風呂(移動時間含む)	
21:00					
21:10					
21:20		○ディボーション& 翌日の確認 長谷川			
21:30					
21:40					
21:50					
22:00	○ディボーション& 翌日の確認 担当:		○ディボーション& 翌日の確認 北坂		
22:10					
22:20					
22:30					
22:40					
22:50					
23:00					

## 「主を伝えることの喜び」

ALPS 生 島勝 愛

このアウトリーチで、はじめに行ったのは、教会周りの雑草抜き、教会の近くに住む未信者の方のブルーベリー畑の農作業奉仕でした。どんな形であっても、奉仕にはそれぞれの形があり、神様のために召してくださる色々な方法があります。だれかひとりの人のためにしたことが、「わたしのために、ありがとう」と神様が喜んでくださるのだなと思います。神様に用いられる方法はほんとに千差万別であって、その小さなことに忠実に、むしろ小さなこと一つでも、人のために主のために喜んで行える人こそ、主に大きく用いられるものへとされる、と感じるときでした。

また、祈って備えて主と共に出ていくとき、そこには自分の力ではなくて、主が見せてくださる奇跡を経験する素晴らしいときとなりました。私たちが行ったキッズミニストリーの前日には小学校の前でトラクト配りをしました。あまりトラクトを配っても実際に教会まで来てくれるのには結構ハードルが高いということは耳にしておりましたが、明らかにそこにも主は働き、奇跡を起こしてくださいました。「コープの近くの赤い屋根の教会わかる？」と子供たちに聞くと、そこまでわかりやすい場所にあるわけではないのに、「わかるよ！」と。こっちからがんばって一方的にトラクトを配るようなイメージでしたが、実際には「なに配ってるんですかあ？」と、どんどん子供たちの方から寄ってきてくれて、「私にもちょうだい！」と何人もの子供が自ら受け取りにきてくれるほどでした。「でも、いざ教会にくるといのは、中々ハードルがあるだろうな」と思っていました。が、「必ず、主が備えてくださってる子供たちを送ってくださるように」と、信仰をもってみんなで祈りました。

なんと当日には、教会の子供を含まずとも、15人もの子供たちが来てくれたのです！その中でチラシを通して来てくれた子供も何人もいました。私たちが用意した動画や神様の証を、釘付けになって聞く子供たちを見るとき、感動と喜びで胸がいっぱいになり、涙せずにはられませんでした。実際に、最後のコーリングでイエスさまを受け入れたいと手を上げた子供が、五人ほどいました。しかし、心にイエス様が触れてくださった子供は、もっともっと多かったように感じます。

また、その他にも教育大生との国際交流ピクニックがありました。私自身、ちょうどその学生たちと同じくらいの年齢のときに、まさに国際交流イベントを通して救いへと導かれていたので、ますます情熱と期待が私のうちには湧いていました。このときも本当に素晴らしく神様が働いてくださるときとなりました。交わりをする中で、何人かの学生にイエス様に救われた経緯や、いくつかの証をすることができ、最後には、「教会にぜひ行きたい！」という何人かの声を聞くことができました。このピクニックの短い時間で「イエス様という、あなたが出会える方がいるんだよ！」ということ伝えていくことができたことにも溢れるほどの喜びを感じました。

このアウトリーチを通して、私たちが出ていくときに、主が働いてくださった実りと、そしてイエス様を伝えることの溢れる喜びを再確認することができました。本当にこのような素晴らしいときを与えてくださった神様に感謝します！



## 「自分の予測と努力を超える聖霊様のいのちの流れ」

1年生 北坂信頼

今回のアウトリーチは本当に素晴らしい時間となりました。神様に感謝して報告します。

実際に教会に行く前から、岩見沢の教会の Josh 先生や教会の方々の祈りの様子から、今回のアウトリーチに聖霊様の働きを強く期待しておられることが伝わってきました。その様子を見ていて、神様はどんなことをしてくださるか僕自身もとても期待感がありました。また、デボーションの中で、エゼキエルの箇所から、聖霊様の流れが人々にいのちをもたらすこと、しかも、僕たちの取り組みを遥かにこえて大きな結果をもたらしてくださるといことが示され、さらに神様への期待感が高まりました。

金曜日に、翌日に行う子供イベントのため、小学校の校門前にチラシ配布に行きました。正直チラシをどのくらい受け取ってくれるか不安もありつつ、祈りながら配りに行きました。すると、予想を遥かに超えて子供たちがたくさん来てくれて、あっという間にチラシはなくなってしまいました。子供達の方から「何をやっているの？」と寄ってきてくれて、チラシは一気になくなりました。僕自身これまでチラシ配りや販売員のアルバイトもしてきたので、これくらいしたらこれくらいの結果が出るという予測もありましたが、そんな予想を遥かに超える結果となり、聖霊様が働かれたことを感じました。

子どもイベントの当日、どうなるかなと思いつつ祈りつつ待っていました。開始の時間近くまでにやってきたのは、教会にもともと集っている子供たちのみで、その子供たちの集まりに感謝しつつ、やっぱりチラシをもらって初めて来るのは難しいのかな？それでも聖霊様と共にチラシを渡しつつ関わられたのは感謝だったな、来た子供たちと感謝して過ごそうと思いつつ待っていました。しかしそんな思いを超えて、開始予定時間を少し過ぎたあたりから子供たちが続々とやってきました。もともと教会に通っている子、チラシを見て教会に初めてきた子供たちをあわせて、最終的には20名の子供たちと共に遊んだり、福音が分かちあわれる時となりました。理恵さんのメッセージと招きの後、信じると手をあげた子も数名いました。

金曜日の午後、大学生とのピクニックの時間もありました。理恵さんをリーダーに作られたキンパが大好評で、これまで Josh 先生たちが作った関係性もあり、一人一人が心を開いている様子でした。チームメンバーの愛さんが学生時代、同じようなイベントを通して救われた経験があるとのことで、関わる子供たちへの思いを持って関わったり、証をしているのが伝わってきました。それまで過ごした時間の中で、僕自身も、もう少しダイレクトに神様の話をしたいという思いがありました。話をすることで、愛さんの証を聞いた大学生の心が開かれている様子が見え、大学生の方から質問をしてきてくれたり自然な流れで、自分自身の証も分かちあうことができました。それぞれの証の話は彼らの心に刺さっているようでした。最後に次のイベントの予定を聞いたがる子や、教会のチラシを欲しがる子、連絡先を交換してこれからも関わりたいと言ってくれる子なども起こされました。神様がそれぞれの心を開き、働かれたことを感じました。日曜日の礼拝も新しい子供たちが来ることができ、素晴らしい時となりました。

全体を通して、本当に神様が働いてくださったことを感じました。僕たちがやったことが一としたら結果が何十倍も出ているような、自分たちの力で同じことをしても同じ結果は出なかつたろうなと感じる時でした。神様が働かれる時はこういう風になっていくのだなと思われ、感謝でした。

また見えないところで仕えてくださった方など、それぞれ全員の経験や賜物が生かされ、どんな事があっても最終的に全てが守られ、神様は素晴らしいと思わされる時でした。神様に、また積まれたお祈りに感謝します。

## 「収穫を共にする喜び」

ALPS 卒業生 長谷川理恵

「わが愛する者、私の美しい人よ。さあ立って、出ておいで。ご覧、冬は去り、雨も過ぎて行ったから。地には花が咲き乱れ、刈り入れの季節がやって来て・・・」(雅歌 2 : 10-12)

主は右の手と力強い腕によって誓われた 「わたしはあなたの穀物を、再び敵に食物として与えはしない。あなたが労して作った 新しい葡萄酒を、異国の民がのむことはない。取り入れをした者が、それを食べて主をほめたたえ、ぶどうを取り集めた者が、わたしの聖所の庭でそれを飲む 」  
(イザヤ 62 : 8-9)

アウトリーチに先立って、主が預言や御言葉を与えてくださっていたことを感謝します。神様が、遣わされる地で、すでに救いたい方々を呼びよせておられること、また「子どもたちを満たす天のお父さんの食卓」という言葉もいただき、素晴らしい収穫があることを信じて祈り、備えていました。

その約束通り、大学生イベントもキッズイベントも盛況で、天気も守られ、主の恵みが溢れました。大学生とは手作りのキンパを食べ、日曜礼拝に来てくれたキッズとはバーベキューと一緒に食べ、また近所に住む方の畑の草むしり奉仕でも、その方を囲んでお菓子と飲み物をいただき、神様が、どこに行っても暖かい食卓と交わりを用意してくださっていました。短い時間でも、一緒に遊んだり一緒に草むしりしたりする中で、愛と喜びが生まれました。

キッズイベントでは、メッセージを担当しました。

実は、1学期の朝のディボーションで、小学生の時に犯してしまった罪とその赦しの証をした時に「そういう証はぜひ子どもたちに聞いてほしいね」と言われてから、いつか子どもに証したいという思いが心に与えられました。主のタイミングは素晴らしいです。アウトリーチで早速、その思いが実現し、メッセージ後のコーリングでは、3人の子どもたちが応答し、一緒に受け入れのお祈りをすることができました。

証をする喜び、伝道の情熱、まだ救いを知らない魂への思いが沸き立つ機会となり、改めてクリスチャンとしての使命を新たにさせられました。

5人のメンバーのそれぞれの賜物を活かすことができ、事故や怪我、体調不良からも守られたこと、祈ってくださった方々と、主に心から感謝いたします。

## 「帰るべきところ、あなたのいる場所」

ALPS 卒業生 後藤鉄成

人々は何を思って生きているのでしょうか。日々の営みが明日も続くように思っているのか、突然終わりを告げることになるのでしょうか。自分の存在がこの世からどのように見られているのでしょうか。

あなたの存在はどこにありますか？ 肉体を持って自分の意思で生きているのか、何かに突き動かされて生きています。それが何なのか、自分の欲望や願望、あるいは得体の知れない不安や絶望に取り囲まれて生きています。今までの営みが突然崩壊してどこに向かうのか、何を頼りにして生きて行けばよいのか、今の時代に生きる者たちは何に心を奪われているのでしょうか。

人は自分の存在を何かで認めてもらおうと必死に生きている、しかし、それは一時的なものではありません。永遠の命の源であるイエスキリストを知ることが人の存在理由です。人はどのようにイエスを知ることが出来るのでしょうか。

人は心の内側を知らないで、見える所だけで判断してしまうのは悲しくもあり仕方のないことでもあります。何故出来ないのか、相手の横に座って話を聞いて、わからなくても相手を受け止めようとする事で人の心を開くことが出来るではないでしょうか。目に見えない、理解できないことの中にも大切なメッセージが沢山詰まっています。

人の目には小さく見えるが、神の目には輝く可能性が見えます。神に委ねる勇気がなければ神の御業の奇跡を見ることは出来ません。人は人を恐れ神の可能性を摘み取ってしまう、一人一人が神からの力を受けて発揮するときに、小さなことでも大きなことでもそれらが組み合わされ神の計画と奇跡が起こると信じています。

子供たち、大学生たちも日々の中でそれぞれの目標に向かって生きている中、自分の活躍する場、存在を求めて前進しています。それは、人からの評価であったり、自分自身の価値を高めることだったり世の中からのどのような評価をしてももらえるかが重要な基準となっています。

確かに、世間からの評判の良いことは大切なことで行うべきことですが、そこばかりに目が囚われていると、本当の自分がわからなくなって神様から頂ける祝福を逃すことになってしまいます。

あのカンダケの高官が「導く人がなければ、どうしてわかりましょう」（使徒8：31）というように、私も導いてくれた人がいたように、彼ら彼女らにも導く者が必要です。今日はその日、私たちがその使命を携えていくのです。すでに、ジョシュ先生により種はまかれています、それを我々が命の水を注ぎ芽生えさせるのです。

新しく子供たちが3人礼拝に来てくれました。彼らも自分の居場所を見つけたようです。とても喜んで賛美をしていました。大学生たちもキリストの証に熱心に耳を傾けてくれました。今の自分で終わりではなく、永遠の命の源のイエスキリストを知ることが本当の帰るべきところであり居るべき場所を見つけることになるのです。

## 「リーダーとして何ができたか」

2年生 本間 章宏

自分は今回の岩井沢アウトリーチのリーダーでした。

自分は、リーダーの適性をあまり持っていないと自分に対して思っているため、決まったときは「本当によいのだろうか」と思いながらリーダーを引き受けました。

今回のアウトリーチを通して、そのことが払拭されたわけではありません。変わらず、その適性が自分にあるとは思っていません。

しかし、こんな自分でも良いと思えるようにはなりました。

アウトリーチの詳細については、他の人のレポートで言及されているので自分は省略しますが、子どもたちがたくさん教会に集められ、教会に来たいと思う若い人が何人も現れました。

それには、事前にチラシ配りを行い、岩見沢シオンキリスト教会の皆さんのこれまでの交流がありましたが、そこには、明確に「神様の働きに自分も入れてもらっている」という実感がありました。

子ども相手であっても、チラシを渡すのには勇気が必要でした。足はすくみ、背中には汗が流れました。大学生との交流の時も、何を話せばよいか分からないので、運動しているチームに混ざること、深い交わりを避けていました。

リーダーとしての自分の決断が良い判断か分からないので、常に自分の心には「本当に大丈夫だろうか」という不安がありました。

まるで目の前が何も見えない深い霧の中を一番前に立って歩いているような感覚でした。

しかし、神様は人を教会に集めて下さり、神さまに心を向ける学生も現れました。

私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。(コリント人への手紙 第一 3章6節)

種をまいたのは自分たちでも、教会に子どもたちを向かせたのは神様です。

自分の行ったことの中で働かれる神様を見た時、リーダーとしての働きを悩んでいる自分がとても小さいことを悟りました。

「祈りながら」「頼りながら」と言いながら、自分の力で頑張ろうとし、神様が先頭にいるのに、自分が先頭に立って進んでいると思いついていました。

その、自分の愚かさを神様は気づかせて下さいました。その自分のどうしようもない弱さを打ち砕いて下さいました。これからは、自分は自分のまま、神さまの与えてくださる希望に目を向けて歩んでいきます。

最後に、受け入れてくださった岩見沢シオンキリスト教会のジョシュア先生、スタッフであり私たちの先輩でもあるケンケン、迎え入れてくださった、岩見沢シオンキリスト教会の皆様、祈りの内に送り出してくださった利先生、紀子先生、スタッフの皆様、一人一人に心より感謝申し上げます。



# 長崎アウトリーチ



2022年7月7日～11日

メンバー

大木隆弘・結城直子・本山聖  
柏原龍馬・梨夏・愛世・詩羽



## ラジオ伝道



## Webコンサート



## 食事交わり・オフショット



## 長崎の地(山本村・彼杵・西坂・天主公園)



## 長崎チーム タイムスケジュール

### 7/7(木)

8:30 学院出発 10:35 新千歳空港 - 福岡空港  
12:45 福岡空港着 木原牧師、純子牧師と合流 13:00 二十六聖人跡地見学 「山本村→彼杵」  
(梨夏、愛世、詩羽は純子牧師と長崎へ) 16:30 夕ご飯 17:00 梨夏、愛世、詩羽が宿泊場所到着  
18:00 二十六聖人跡地「時津→西坂」  
20:00 晩ご飯(長崎名物皿うどんをご馳走になる) 解散(柏原家と3人のメンバーは宿泊場所が別)

### 7/8(金)

9:00 龍馬、愛世 天主公園で外遊び  
10:30 帰宅 昼食準備(龍馬シェフ) 11:30 チームミーティング 兼 昼食  
13:00 預言入門クラス(純子牧師より) 15:00 浦上天主堂見学 15:30 原爆資料館見学  
17:00 長崎エルサレム教会の方とフェローシップ 18:00 夕食  
19:30 ラジオ出演のため出発 20:00 ラジオ出演(1人×5分の証) 21:15 解散

### 7/9(土)

11:00 チームミーティング 兼 昼食(龍馬シェフ)  
12:30 web コンサートのリハーサル  
15:00 web コンサート ~山里ゴスペルクラブとコラボ賛美「さあ、感謝しよう」  
~CFNJ 学院生「キリストを世界へ」~その他 龍馬:3曲、聖:1曲、直子:証 等  
17:00 反省会 兼 夕食  
18:30 天主公園にて公園伝道ライブ(梨夏、愛世、詩羽は帰宅) 20:30 解散

### 7/10(日)

6:30 デボーション  
7:30 第一礼拝(ショートメッセージ:隆弘、証:直子)→梨夏、愛世、詩羽は自宅礼拝  
10:00 第二礼拝(特別賛美:龍馬、証:梨夏、聖) 12:00 昼食  
14:00 welcome 礼拝(特別賛美&ショートメッセージ:龍馬、証:隆弘)→梨夏、愛世、詩羽は自宅礼拝  
15:30 インターナショナル礼拝(特別賛美、証:龍馬)  
17:00 アウトリーチ全体の反省会&隆弘バースデー前祝い  
18:45 夕食(長崎ちゃんぽん) 19:30 解散

### 7/11(月)

7:00 西坂公園見学(龍馬、梨夏、愛世、詩羽) 8:00 デボーション  
9:30 長崎エルサレム教会の方にご挨拶 10:15 福岡空港へ  
(隆弘は長崎空港からの帰宅なので福岡空港で分かれ解散)  
↓ここから隆弘のみスケジュール  
10:20 月曜礼拝参加...証 12:30 預言のクラスに参加(純子牧師)  
16:00 木原牧師が長崎空港まで送ってくださる(ありがとうございました)  
17:00 木原牧師と夕食 18:00 長崎空港で木原牧師とお別れ 19:20 長崎空港発

## 「主に聞き従う事の祝福-見えないものに目を留める-」

ALPS 生 大木隆弘

まず初めに、受け入れて下さった長崎エルサレム教会の皆様、木原牧師ご夫妻、覆って下さった鍛冶川先生ご夫妻、スタッフの皆様、関わって下さったお一人お一人に何より主に感謝します。祈りの中で「今回は長崎に遣わすよ」という主からの強い確信と平安があり、最初から最後まで主の御手の中にあった祝福の時でした。車での送迎、宿の提供、献金での支え、交わりと食事など多くの方が助けて下さり本当に心から感謝します。

今回は最多人数の7人のチームで自分自身リーダーとして任命されてのアウトリーチでした。特に学んだ事は【主に聞き従う事の祝福】&【イエス・キリストに目を留める】という事でした。

- ・「礼拝は祈りが鍵」と教会の皆様が土曜日に何時間も祈っている事・祈り抜くと主が働かれる事
- ・主に徹底的に聞き従い示されるまで祈り、また必ず吟味し御声に従い生きる事
- ・長崎の霊的戦いの中、実際に霊的攻撃もあり目に見える状況ではない部分にある原因がある事
- ・チームメンバーの1人が出発当日まで40度の高熱で苦しんでいたが、主のSTOPがなかったので信仰により出発すると長崎に入った途端に36度台に熱が引いた体験を通して、

「さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。...信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、その結果、見えるものが、目に見えるものからできたのではないことを悟ります。」(ヘブル11:1.3)このみことばを体感させて頂き、どんな時にもイエス様に目を留める事が大切(ヘブル12:2)だと僕の信仰生活に大きな影響を与えて下さいました。

**【祈りは聞かれる】**... 祈る時に徹底的に主に感謝する事、具体的にベストを主に求める事、主に委ねる事の大切さを教えて下さり、木原牧師が「人にではなく主に祈り求めるんだよ」と証などを交えて教えて下さり、子供がお父さんに求めるように「そんな祈りしていいんだ」という祈りをされていて、祈りに対しての楽しさが増し加わり、僕も実践してみると具体的に祈った祈りの答えを主がすぐに応えて下さる体験があり「祈りは聞かれる」という事をさらに深く体験しました。

**【リーダーとしての訓練】**... 今回2度の反省会の時があり、普段優しい木原牧師が愛を持っての確に厳しい事も伝えて下さり、僕自身についても「大木くんは、牧会者の賜物があるから優しいのは素晴らしいが、これからリーダーとして、神に言われたことを通すために、『愛を持った厳しさ』が必要だよ。今のまま優しすぎだと、ある所からは神の働きを任せられなくなる事がある。」と大切な事をはっきり伝えて下さり感謝でした。大牧者であるイエス様に養われ、ますます主の似姿に変えられていきたいと思えます。

**【霊的戦い・祝福の前触れ】**... 今まで僕の内側に敵は攻撃を仕掛けてくる強敵のようなイメージがありました。しかし、長崎での霊的戦いを通し、木原牧師が「こちらが今まで敵に奪われた所を取り返そうと敵の陣地に踏み込むからそこにいる敵と戦いが起こるだけだよ。」と教えて下さいました。これは僕の信仰に大きな影響を与えました。主の御心に従おうとする時・自分の内側にある要塞を主にあって砕こうとする時、不安や恐れが来る事があっても、主が何よりも強く、それは着実に勝利へ向かっている事なんだと心から思えました。神の国がますます心の内側に広がるようにこれから戦いがあった時、この事を思い出し、主と共に戦いたいと思えます。

また、長崎エルサレム教会の親友のエルサレム君と期間中に電話などで連絡し、祈りで支えてくれて、僕の誕生日のお祝いまでして下さい、友に心から感謝します。教会の祝福のために主が遣わして下さいましたが、僕達も大いに祝福されました。主に心から感謝します。ハレルヤ。

## 「靈的祝福に目が開かれた！」

1年生 柏原龍馬

「御心かを聞く、聞き従う、実を見る」この流れに入れました。純粹に神の声を聞く、交わりそのものが楽しくなりました。また召しがある程度明確になりました。

伝道賛美、伝道メッセージ、教師的役割に関しては、お褒めの言葉と臨在を感じたとお伝え頂きました。信仰者としては長崎エルサレム教会のイザヤ牧師、純子牧師の祈りから学ぶことが多くありました。下記のような奇跡を体験しました。

・宿泊先の提供　・娘の体調の完治　・現地での特別献金による経済の満たし　・学院からの特別献金（感謝します）　・空港までのお見送り（スタッフの勝吾さん感謝します）　・長崎での本質的な悔い改め　・自分の召しの明確化　・預言的建て上げ＝神の目からの自分の本当の価値の発見　・アウトリーチ後も次に進むべき道が示される

### 【靈的戦いの実体験】

①【娘の高熱と長崎での癒し】→出発直前に40度弱の発熱をしました。敵からの攻撃は最も弱いもの（未信者）に來ます。そしてその攻撃は明らかに祝福の前触れでした。そして靈を縛り、祈り、主に聞き従うとそれは必ず主のタイミングで癒やされることを体験しました。

②【天守閣公園での野外賛美による未信者の礼拝参加】→カトリックの浦上天主堂のミサのタイミングにカトリックマリアの靈を縛り目の前の公園で伝道賛美を行いました。チームのフォローもあり、教会が伝道コンタクトを取りたいと切望していた未信者の女性が奇跡的にマンションから出てきたり、通りがかりの男性がその後礼拝に参加したりと実際の実を見ました。靈的領域があること、そしてキリストの勝利を知りました。

### 【イザヤ牧師の教え】

①【信仰の本質について】... 全ては神の御手にあるということの発見

祈りにその扉を開く鍵がある... 徹底的に感謝し、具体的にしつこく求め、主に委ねる

②【殉教への道は御国が内側に現れることの実感と事実】... 26 聖人の跡地をめぐり殉教つまりキリストの十字架に向かうこと、死そのものに御国の実感があることを知る

③【本当にキリストが自分から現れると自分は全く評価されない】... 自己義に死ぬことが最も重要。そのために感謝が必要であり、祈りが大切である。

### 【礼拝に関して】

①【賛美】... 礼拝賛美はそのまま伝道賛美で通用する、伝道賛美向けに作り替える必要はない奏楽者を用意、ボーカルに集中する方がより臨在は高まる可能性がある確信

②【メッセージ】... ヨハネ的メッセンジャーであることの確信。同じ話を様々な例えでグルグルと回りながら先に進んでいく。既存の説教学のノウハウは重要だが現場では、原稿の余白、つまり原稿外から聖靈が語りかけること、そしてその体験をする。更に短く話せるように訓練を受ける必要がある。

③【証】... 自分の意見やオススメの削除、ただ純粹にキリストを証することとメッセージの境目の明確化

### 【祈りの成就と癒しの奇跡】

今回、長崎アウトリーチに自分を含めた大人5人と、子供2人で行きました。長崎はキリスト教で有名な場所なので、昔から「一度は行ったみたいだな」と思っていました。「長崎にいつか行けますように」と、何年も前からイエス様に祈っていて、今回アウトリーチで行ける事になり心から主に感謝します。

お祈りはやっぱり聞かれるのだと感じ、イエス様の事がもっと好きになりました。アウトリーチで神様の奇跡の癒しと主の霊的な励ましを体験しました。奇跡の癒しとは、アウトリーチと一緒にいった、ことはちゃんの熱が癒されたという事です。最初は、熱が続いたら空港も通れず、長崎と一緒にいくのは無理かもしれないという、暗い雰囲気がチーム内に少しありました。しかし、木原先生の一言で、自分たちチームの信仰が奮い立ち、自分たちみんなが主に立ち返り、不信仰だった罪も主に対して悔い改め、ことはちゃんの癒しを心からみんなでお祈りしました。結果として長崎に着いた瞬間、見事にことはちゃんの熱が癒され、神様の奇跡を体験しました。また個人的にも元気になったことはちゃん、まなせちゃんとも、一緒に教会で遊べたりと、自由時間の時に共に過ごせた恵みも主に感謝します。

### 【主の霊的な癒しの体験】

自分は昔から霊的に敏感で、サタンや、悪霊の影響によって、すごく頭が痛くなったり、聖書を普段は読めるはずなのに、全然読めなかったり、聖書の話しを聞くと眠くなったりしてしまいました。自分はとても辛くなり、2日目の夜には泣きそうになっていました。しかし、神様が『恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えて、あなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。』（イザヤ41章10節）という聖書の御言葉を与えてくださり、主の御言葉からの励ましと、主からの愛の励ましを受けました。

その事を通して再び僕の信仰も奮い立たされ、「今は霊的に辛い時かもしれないけれど、どんな時もイエス様はいつも僕と共にいて下さって、悪から守ってくださっているんだな。もっとそのような愛のお方である、イエス様についていきたい」と心から思えた感謝の時でした。

今回こうして、神の家族であるたかひろ、龍馬お兄ちゃん、りかお姉ちゃん、直子さん、まなせちゃん、ことはちゃんと一緒にいった恵み、またチーム内でみんなと一緒に活動することができた恵みを、心から主に感謝します。みんなと車の中でお話ししたり、最終日の前日には長崎ちゃんぽんを食べに行けた事も嬉しかったです。イエス様ありがとう。

メンバーの一人一人にも心から主に感謝します。みんなありがとう。今回のアウトリーチの恵みもすべて主に栄光をお返しし、主に感謝します。ハレルヤ！



## 「さあ感謝しよう」

2年生 結城 直子

### 【選択】

このアウトリーチで私が体験した最も大きな恵みは、主に献げるささげ物には人の評価は必要ないという方向転換でした。用意してきた証とは別のことを当日朝に御言葉から語られ、それを証するか、用意してある上手にまとめた証をするかの葛藤をしたのです。その朝に受け取ったものは私にとって大きな励ましでしたが、聞く人を励ますものではないように思えました。けれど主は、「恐れることはない、私は語る神だ」と語ってくださり、促されるように導かれた方を選択し、証と賛美を献げました。これまで誰かに向かって語るものと思っていた、そんな私の方向転換を主はこの出来事を通してなさいました。主に向かって献げた証と賛美は、人の目にどう映ったかわかりません。けれど、そのような評価がもう必要ないと思えるほど心は晴れやかで、聖霊様からシャワーのように注がれる喜びに、ただ涙が溢れました。殉教という恐ろしかった響きが、主への応答の喜びだということを垣間見る体験となりました。初日はイザヤ木原牧師が殉教地の案内をしながら多くのことを語ってくださいましたが、その中で何度も「選択だ」と仰っていたのが印象的でした。どんな痛み苦しみの中でも、主への信頼による選択・決断であると。神の言葉に本気で応答した時、主は必ず応えてくださる良いお方であると、木原牧師ご夫妻の証の数々からも励まされました。私の一步は小さなものですが、この主の喜びが私の恐れを優しく解いてくれたことに感謝します。

### 【5つのパンと2匹の魚】

滞在中の2度の講評の中で語られたのは、私に与えられた役割を務めることでした。証をする人は主が何をしてくださったかを語り、メッセンジャーがそれを活かす。私が、チームが、キリストとひとつになりキリストを流す、そのチームミニストリーなんだと。何度も聞いてきたし、今回は自分に与えられた役割を務めようと出発したにもかかわらず、私の思い、私の正しさが邪魔していたことを痛感しました。的を射ているが故に痛みもありましたが、それを通して弱くされた私たちに主は公園での賛美で良い業を見せてくださり、夜の住宅街でお互いのために祈り合う時間をくださいました。これらの時間は本当に不思議な幸福感で溢れていました！群衆の前にはわずかなものであった5つのパンと2匹の魚を用いてくださったイエス様は、5人の大人と可愛い2人の子どもからなるチームをも用いてくださいました。ハレルヤ！

### 【感謝！感謝！感謝！】

このアウトリーチのために、木原牧師ご夫妻はミーティングの時を何度も持ってください、その中で私たちチームに徹底的に、丁寧に感謝することを教えてくださいました。まず感謝を献げる、感謝できないことも感謝する。感謝し尽くした時、感謝できないことがやってくるが、それも感謝する。ゴスペルクラブの方々は、「さあ感謝しよう。どんな時にも、全てが益になる奇跡を見るから」と、私たちチームと歌う賛美を用意してくださいました。この賛美が、折に触れ、私の心に流れ励ましてくれることでしょうか。

このアウトリーチをくださった主に心から感謝します。天の父の愛で愛してくださったイザヤ木原牧師、純子牧師を始め、私たちを歓迎しその愛で抱きしめてくださった長崎エルサレム教会の皆様、住まいを提供してくださった森祐子さん、熱く熱く喜んでくれたエルサレムくん、主がくださった出会いの全てに心から感謝します。全てをくださった天のお父さんに心からの感謝を献げます。主に栄光！



## 「靈的な戦いで家族を守る」

1年生 柏原 梨夏

今回のアウトリーチ全体として、靈的戦いを通して御心に歩む時と、家族を守ることのバランスを学びました。私が今回のアウトリーチで求めていたことは、

①子育ての中で神様と交わる時間の確保 ②奉仕と子育てのバランスを整えるの2点でした。

### 【長崎に到着するまでの靈的戦い】

アウトリーチの2日前、娘が発熱し、当日の朝まで40℃弱の熱がありました。アウトリーチに行けるのか…。これは神の御心を歩むことによる敵の攻撃なのか…。長崎に行って祝福はあるはずだけど、常識的に考えたら行かない方が子供のため…？というジレンマに悩まされました。長崎エルサレム教会のイザヤ牧師より、子供の熱の下げ方を教えて頂きました。(イザヤ牧師は8人のお子様を育てた経験があります。)

①医者に診てもらおう ②夫婦で一致して祈る ③真剣に祈る ④心を探る(夫婦間での不一致が多い) ⑤悔い改め、赦し合う ⑥へりくだって祈る。

私には、信仰が試される経験でした。夫婦2人で1日中祈りました。ただ、主に信頼すれば治る、という半端な信仰ではありません。心から神の御心を歩みたいと思いました。主のストップがない限り、行くべきだと感じました。1番弱いところにサタンは攻撃してくることを学びました。私たちが泊まらせて頂く宿が、カトリック信者の方のご自宅で、マリア像を捨ててくださったこともあり、靈的な戦いがあったのだと思います。結果として家族で行くことを決定し、私と娘2人は初日に予定していた26聖人跡地の見学はせず、福岡から長崎に直行しました。長崎に入ると下熱し、次の日には完全に熱が36.0℃台まで下がっていました。純子牧師が送迎してくださり、道中で8人の子育てをしながら祈る時間を持つことを教えて頂きました。早朝4時に起きていて、祈っていたとのことでした。純子牧師とは深く話したいと思っていたので、このような形でじっくりと話を聞くことができるのは、アウトリーチ期間でも貴重な時間でした。

### 【靈的戦いから子供を守る】

天主公園での公園伝道では、私と娘2人は祈ったうえで自宅待機することにしました。天主公園は、浦上天主堂の目の前にあり、その日はカトリックのミサのタイミングと被っていました。エルサレム教会の方も靈的戦いの狼煙をあげに行くような場所だと話されていました。他の場所はどこも閉ざされてしまい、最後に残ったのがこの天主公園でした。私はアウトリーチ開始以前から、公園伝道したい！！と強く思っていました。病み上がりの娘を抱えていることもあり、牧師の助言を頂き、子供たちを守る意味でその場所には行きませんでした。私は行きたくても、主から明確なGOサインがない限りは行かないことを決めました。靈的戦いでは小さい者(弱い者)が狙われることを学び、同時に祈りを通して子供たちを守っていくことへの責任を強く思われました。実際的な身の回りの守りももちろんですが、もっと主に委ねる子供たちの守りが必要であることを感じました。何でもできることならしたい！！という私が、奉仕よりも、子供を優先することを選択できたことは、私にとって良い経験であり、学びとなりました。

### 【マリア崇拜からくる女性の権威の畏】

カトリックではマリアは「無原罪のマリア」つまり、神の母であり、人として罪がないと崇められています。このカトリックが根強い環境から学んだことは、女性が陥りやすいのは、権威の上に立とうとすることです。つまり、夫に権威があるにもかかわらず、心の中で裁いてしまい、自分が神が与えた権威の上に立とうとする可能性があるということです。これは普段の生活でも悔い改める必要のある事柄であると認識することができました。

# Special Thanks

まだまだコロナの影響が残る中、快く受け入れてくださった先生方

岩見沢シオンキリスト教会 Joshua & Haruka Ruth 牧師夫妻

長崎エルサレム教会 イザヤ木原真 & 純子牧師夫妻

沖縄プレイズチャーチ 池原吉治牧師、仰一牧師

Vine チャーチ 本間照美牧師

MOJ ファミリーチャーチ 伊江留津美牧師

読谷山焼北釜 松田共司師

また、迎え入れてくださった教会の皆様、執り成し祈ってくださった皆様  
全ての賛美と感謝と栄光がイエス・キリストにありますように。